

県立境高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】(令和7年度)

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

本校伝統の文武不岐の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性と逞しい心身を養うとともに、自主自立を涵養し、グローバル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕を育成する。

- (1) 「生きる力」を身につけ、生涯にわたって学び続けるための基礎基本を身に付けさせる。
- (2) 進路指導を充実し未来を切り拓く力を育成しながら、幅広い希望進路を実現させる。
- (3) 規律を遵守する精神と望ましい生活習慣を確立させる。
- (4) 保護者・同窓会・地域と連携して生徒の健全育成に努める。
- (5) グローバル人材の素地となるスキルと感性を培う。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働きかせ、国際的な視点による地域や社会の課題に関する総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、主体的な進路選択のための課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 国際的な視点による地域や社会の課題に関する探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の課題が自らの進路選択に深く関わっていることに気付き、それら課題の解決を探すことによって主体的な進路選択ができるこを理解する。
- (2) 国際的な視点による地域や社会と自分自身との関わりから、進路実現のための問い合わせを見いだし、その解決に向けて情報を分析したり、論理的にまとめたり、表現したりする力を身に付ける。
- (3) 国際的な視点による地域や社会についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、生涯にわたって学び続け、地域社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

●信頼される評価であるために

- ・学習活動前の生徒の実態把握、学習活動中および学習活動終末の生徒の学習状況の把握と改善を年間計画の中に位置付ける。
- ・授業担当間で連携を密にし、学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
- 多様な評価や学習状況の過程を評価するため
- ・論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物、それらを計画的に集積したポートフォリオにより評価する。
- ・プレゼンテーションやポスター発表、総合芸術などの表現を評価の対象とする。
- ・学習や活動の状況などの観察記録により評価する。
- ・振り返りシートや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価による評価も行う。

生徒の実態

- ・興味関心のあることには積極的だが、それが主体的な学びに結びつかない。
- ・素直だが、受け身の進路選択になりがちである。
- ・広い視野を持ち、見通しを立てて物事を考えることが苦手である。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・個に応じた教育課程を策定する。
- ・情報の共有を図る。ケース会議を定期的に開催する。
- ・家庭・医療機関との連携を密にする。

目指す生徒の姿

- ・「生きる力」にあふれ、生涯にわたって学び続けるための基礎基本が身に付いている。
- ・多様な考え方を受け入れ、他者と協働することができる。
- ・主体的な進路選択ができる。
- ・規律を遵守する精神と望ましい生活習慣が確立している。
- ・グローバル人材の素地となるスキルと感性を備えている。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

1学年

●自己の興味・関心や適性を知るための手立てや取組

- (1) 探究の過程において、自己の興味・関心や適性の発見に必要な知識及び技能を身に付け、自己の興味・関心や適性を理解することが、高校生活や進路の目標を設定する上で大切であることに気付く。
- (2) 集団と自己との関わりから自己発見に関わる問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを認め合いながら、良好な人間関係作りを実現しようとする態度を養う。

2学年

●地域や社会の課題を国際的な視点から解決するための取組

- (1) 国際的な視点による地域や社会の課題に関する探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の課題の解決を自らの興味・関心や適性と結びつけて捉えることで主体的な進路選択ができるこを理解する。
- (2) 地域や社会の課題と自分自身の興味・関心や適性との関わりから、進路選択のための問い合わせを見いだし、その解決に向けて情報を分析したり、論理的にまとめたり、表現したりする力を身に付ける。
- (3) 国際的な視点による地域や社会についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、主体的に進路を選択しようとする態度を育てる。

3学年

●地域や社会の課題を解決する方法を自らの進路実現や地域貢献に生かす取組

- (1) 地域や社会の課題解決に関する探求の過程において、解決策や解決方法を実社会に生かすために必要な知識及び技能を身に付けるとともに、これらの探究活動が自らの進路実現や地域貢献に結びつくことを理解する。
- (2) 地域や社会と自分自身との実践的な関わりから、進路実現や地域貢献のための具体的な問い合わせを見いだし、その解決に向けて情報を分析したり、論理的にまとめたり、表現したりする力を身に付ける。
- (3) 地域や社会の課題解決についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域や社会のよさを生かしながら、生涯にわたって学び続け、地域社会に貢献しようとする態度を育てる。

学習活動、指導方法等

1学年・2学年 連続した2カ年を一つのまとまりとして探究活動を行う

生徒が自分で設定した研究主題についてアカデミックにアプローチしていく過程を体験する。1学年ではプロセスの1・2に取り組み、2学年におけるプロセスの3・4・5・6へと発展させていくものである。

- 1) 研究課題（問題設定、問題の所在）
具体的に、何を、どこまで、どのように明らかにするのか、を設定する。
- 2) 研究・着想の背景
1のような課題に応えることに、どのような意義があるのか、なぜそのような課題設定が妥当であるのか、を記す。
- 3) 研究方法
この研究において採用・依拠するフレームワークや概念、応用・援用する概念や理論モデルについて言及する。調査や研究方法として、まず実証研究か理論研究かに大別することができる。実証研究であれば、調査方法としては事例研究、統計調査、社会的実験、実験室実験などが考えられる。社会科学分野における理論研究の場合は、およそレビュー研究となる。
- 4) 考察
1・2で設定した主題について、3の方法によって分析や検討を行っていく。
- 5) 結論・結果（研究の落としどころ）
上記課題について、上記方法で研究を遂行したことによって得られた結果とその解釈（この研究の新たな価値、残された課題）について記す。
- 6) 研究発表
口頭またはプレゼンテーションソフトの活用などにより、研究成果の発表および交流を行う。

3学年

- ・原則としてワークシートやプリント教材で授業を進める。2年次で行った探究活動から新たな課題を設定する。原則として個人で活動する生徒の主体的な探究活動を、教員が巡回しつつ、指導・助言にあたることとする。
- ・地域貢献（地域の課題解決）の視点を、自らの進路選択に生かすとともに、地域他社会との実践的な活動を重視する。
- ・主権者教育、継続的なボランティア活動、進路講演会、分野別進路ガイダンス、卒業生との進路懇談会、などを活用する。
- ・探究活動の成果を大学進学等、進路決定と連携させる。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・総合的な探究の時間運営委員会…新学習指導要領を踏まえ、適宜内容や評価等の改善に取り組む。教務、各学年担当の計8名で構成。学校全体の方針を協議したり、各方面とのコーディネイトを行ったりする。
- ・授業担当者会議…授業担当者と運営委員会の担当者とで指導方法や評価観点、進捗状況について適宜情報を共有する。
- ・総合的な探究の時間研修会…新規採用者、転入者対象の研修を実施し、本校の総学の目標や育てようとする資質・能力について共通理解を図る。
- ・境町役場やの地域の小中学校などとの連携…地域のイベント、ボランティア、小中学校の学習支援などへの生徒派遣をコーディネイトし、実践的な探究活動の機会を設ける。